野辺地地区漁場保全事業事前調査
（要約）

桐原　慎二

目　的

陸奥湾野辺地町地先に計画される、水産基盤整備事業（漁場保全事業）によるスゲアマモ藻場造成適地を把握した。

方　法

2003年１月21日に、野辺地町干草橋地先水深５ｍに設置された、長さ200ｍの離岸堤1基分の内側海面に、海岸線沿いに18ｍ間隔で11調査線を設けた。各々の調査線上の水深３ｍから５ｍの範囲について、20ｍ間隔に計53地点を設定し、底質を目視観察するとともに、１ｍ四方に生息する底棲動物の種及び生育する植物を採取した。

結　果

調査場所には、中央岸側に高さのある岩礁が広がり、水深が２ｍ前後と浅かった。これを除き、調査場所はおおむね、起伏が２-30㎝以内の平坦な場が卓越した。

底質は、調査範囲全体に、岩盤上に浮泥または砂が堆積していた。浮泥の厚さは、調査範囲の陸側では１㎝前後と薄いものの、沖側になるにしたがい厚さが増し、水深５ｍ前後では30㎝前後に及んだ。

植物は、調査場所中央にある水深４ｍ以浅の浅所に、小群落が散見された。

スゲアマモの生育状況、底質の起伏からは、この離岸堤陸側では、調査範囲南側にある約8,000㎡、北側部分にある約3,000㎡の計約１haがスゲアマモ移植による藻場造成が可能と思われた。なお、このうち、調査範囲南側部分の沖側に相当する幅20ｍの範囲では、スゲアマモ移植に十分な砂層厚があるため、直接栄養株を移植できると考えられた。一方、これを除く範囲では、厚さが十数㎝になるよう敷き砂をしたのち、移植すべきと考えられた。

発表誌：平成14年度水産基盤整備事業事務費調査報告書．青森県水産増殖センター、平成15年３月．